

試験研究成果普及情報

| | | | |
|---|---------------------------|---------------------|-------|
| 部門 | 森林保全 | 対象 | 普及、行政 |
| 課題名：スギカミキリ被害の県内分布 | | | |
| 〔要約〕 2001 年から 2005 年にかけて県内全域においてスギカミキリの被害状況調査を実施したところ、20 年前には県南部でわずかな被害が認められたが、今回は県内全域に被害が拡大していることが明らかとなった。 | | | |
| キーワード | 千葉県、スギカミキリ、森林被害、被害分布、害虫防除 | | |
| 実施機関名 | 主 査 | 千葉県森林研究センター 環境機能研究室 | |
| | 協力機関 | | |
| 実施期間 | 年度～年度 | 2001 年度～2005 年度 | |

〔目的及び背景〕

林業経営者の高齢化、後継者不足、さらには社会経済構造の変化などによる森林の荒廃に伴い、県内各地でさまざまな森林病虫害による被害が増えてきている。スギカミキリによる被害も 1980 年代の調査では確認されなかった県北部で新たに報告されるようになった。そこで、県森林研究センターでは 2001 年から 2005 年に向け再度全県的な調査を実施し、その分布と被害状況を把握するとともに、スギカミキリ被害防止のための望ましい森林管理について検討した。

〔成果内容〕

1. 今回の調査によって都市部を除くほぼ千葉県全域にスギカミキリが分布していることが明らかとなった。特に、かつて林業が盛んであった北総地域での被害増加が顕著であった
2. 現在のところ一部に甚大な被害が見られるものの、総体的には微害林分が多いので、下記の点に留意し、可能な限り速やかに森林整備を実施することが被害拡大防止対策として有効である。
 - ①スギカミキリによる被害の有無を確認する（可能であれば隣接地についても）。
 - ②成虫の脱出孔が多数ある木は速やかに除去する。
 - ③通常の保育管理の中で被害木を除間伐対象に組み入れ、除去する。
 - ④成虫及び幼虫を駆除する。スギカミキリ成虫は暗部に潜む性質を持っているので、粘着バンド等を巻いて捕獲する。

〔留意事項〕

森林整備に際しては、スギカミキリによる被害状況を適切に判別するとともに、被害木を林内に放置せず搬出し、スギカミキリ発生の温床を絶つことが重要である。

また、スギカミキリによる食害はスギのほか、ヒノキ、サワラ並びにアスナロ等に及ぶが、スギとヒノキでは被害の形態が大きく異なるので注意を要する。

①スギ・・・一般的に幼虫は樹皮下を縦方向に食害していく。材に変色や腐朽が生じ、価値の低下を招くが、樹自体が直ちに枯死することは少ない。

②ヒノキ・・・幼虫は樹皮下を横方向へ環状に食害していくことが多く、これによって形成層が分断され、一種の「巻き枯らし」状態となり枯死に至る危険性が高い。



写真1 スギカミキリ食害例1



写真2 スギカミキリ食害例2

[普及対象地域] 県内全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]



写真3 スギカミキリ成虫



写真4 被害の判別

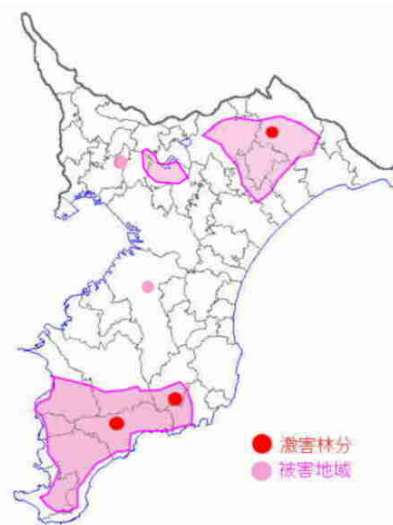


図1 被害地域の分布

表1 被害調査結果（2001～2005 石谷 ・ 1986～1988 松原）

| 調査地域 | 調査林分数 (全体数) | 今回調査 | | | 被害率 (%) | | 前回調査時 |
|--------|----------------|------------|------------------------|---------------|--------------|--|------------------------|
| | | 0 (無被害) | 被害状況 I・II (脱出孔無) | III (脱出孔有) | (I II IIIの計) | | 被害率 (%) (1986～1988) |
| 千葉 | 19 | 18 | 1 | 0 | 5.3 | | 0.3 |
| 東葛飾・葛南 | 23 | 20 | 0 | 3 | 13.0 | | 0.0 |
| 印旛 | 26 | 25 | 1 | 0 | 3.8 | | 0.0 |
| 香取 | 18 | 10 | 3 | 5 | 44.4 | | 0.2 |
| 海上・匝瑳 | 14 | 10 | 3 | 1 | 28.6 | | 0.0 |
| 山武 | 9 | 8 | 1 | 0 | 11.1 | | 0.0 |
| 長生 | 17 | 17 | 0 | 0 | 0.0 | | 0.0 |
| 夷隅 | 12 | 7 | 4 | 1 | 41.7 | | 0.4 |
| 安房 | 11 | 5 | 3 | 3 | 54.5 | | 0.8 |
| 君津 | 26 | 19 | 3 | 4 | 26.9 | | 0.2 |
| 計 | 175 | 139 | 19 | 17 | | | |

(注) 前回と今回の調査では、調査地、調査方法及び調査林分数が異なる。

[発表及び関連文献]

- (1) 福原一成・石谷栄次：スギカミキリ被害の県内分布, 平成 19 年度試験研究成果発表会資料（林業部門）－新しい農林水産業技術－, 6～11, 2008
- (2) 石谷栄次：スギカミキリの生態と防除に関する研究, 千葉県森林研究センター業務報告 36～40, 2002～2005 年
- (3) 松原 功:スギカミキリ発生消長調査, 千葉県林業試験場報告 16～22, 1982～1988 年

[その他]

初回調査（1982～1988）は、国（林野庁）からの依頼による全国一斉調査。